

研究結果報告書

所属 韓国・国立済州大学

役職 助教授

氏名 孫榮奭

研究結果

マルチメディア・コーパスによる発話時非言語行動の日韓対照研究

言語と非言語表現（視線・身振り・表情など）は互いに緊密に関連しあいながら現れる。だが、このことに関する実証的研究は非常に遅れており、その数も少ない。このような状況で、応募者は、大量の実例に基づいて言語と非言語表現の関係を調べるため、ことばだけでなく、ことばが発せられた場面の映像・音声をも検索できるデータベースを、日本と韓国のテレビ対談番組を資料に作成した。

このデータベースには、話し手の音声を書き起こした音声文字化テキストと発話場面の映像・音声とが同期化されており、単語などを検索すると、ある単語が、どのような状況で、誰が誰に向かって話すときに発せられたかが調べられる。しかし、非言語表現に関しては、情報が少なく、たとえば、表情「笑い」が出現した際に、どのようなことばが発せられたかなどを、統計的観点から調査・分析することは困難であった。

そこで、本研究では、上記の問題を解決するため、発話時における話し手の視線・身振り・表情情報を記録し、データベースにその情報を搭載した。そして、その情報を用いて、日本語と韓国語の非言語表現を比較したところ、両言語において「笑い」は、おかしい話をするときのみならず、相手の主張と異なる意見を述べるとき、相手に謝るとき、相手を叱るときなどにも頻繁に観察されることなどが、大量の実例にもとづいて明らかになった。これらの場合の「笑い」は、日韓コミュニケーションにおいて「発話内容の事実性・深刻さを軽減させる」「発話の流れを円滑にする」「聞き手に対する配慮の気持ちを表す」「話し手のよい印象を作る」といった機能を担っていると考えられる。

今後は、日韓言語行動に関する実態調査とともに、両国の一般人向けの異文化コミュニケーション能力向上プログラムの開発などにも、本研究の成果は応用する予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「表情『笑い』を伴った発話の類型化－日韓対照研究の観点から－」・孫栄爽・日語日文学研究・2022年

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『マルチメディア・コーパスと日韓言語行動研究』・孫栄爽・おうふう・2023年